

令和 5 年度 東京都内湾水生生物調査 2 月鳥類調査 速報

●実施状況

令和 6 年 2 月 29 日に鳥類調査を実施した。天候は曇りで、気温 8.2～11.0℃、北風、風速 1.0～2.0m/sec であった。調査当日は中潮で、干潮が 13 時 28 分(42cm)、満潮は 7 時 9 分(176cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
作業時刻	09:19-11:03	13:34-14:33	11:38-13:11
天候	曇	曇	曇
気温(℃)	8.2	11.0	10.0
風向	北	北	北
風速(m/sec)	2.0	1.0	1.2
備考	調査開始時は潮位が高かったが、徐々に干潟が干出。	干潟の干出は少なかった。	公園側に人は少なく、観光船 1 隻が通過した。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位 2 種	スズガモ(6947 羽) カンムリカイツブリ(4695 羽)	コガモ(171 羽) ユリカモメ(35 羽)	カワウ(1803 羽) スズガモ(668 羽)
備考	- クロツラヘラサギ、シロチドリ、ハマシギ、ズグロカモメ、ミサゴ、チュウヒ等、重要種として 20 種を確認。 - 干潟でシロチドリ、ミヤコドリ、ハマシギが採餌。ズグロカモメが飛翔しながら採餌。護岸でクロツラヘラサギとダイシャクシギが休息、草地でタシギが休息。 - ヨシ原でクイナの鳴き声が聞かれた。 - 海上でスズガモとカンムリカイツブリの群れが休息。 - 東なぎさ上空をトビとチュウヒが飛翔。沖合でミサゴが休息。	- ミサゴ等、重要種として 4 種を確認。 - 干潟を利用する鳥は少なく、カモメ類が採餌・休息、ハクセキレイが休息。 - 干潟にいるカモメ類の中にシロカモメ 1 羽を確認。本調査で初記録。 - カモ類はオカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモの 7 種が見られた。 - ミサゴが杭の上で採餌・休息。 - 護岸にハクセキレイが多く、合計 18 羽が見られた。	- オオバン、ハイタカ等、重要種として 9 種を確認。 - 第六台場と鳥の島でカワウが営巣。第六台場で 795 巣、鳥の島で 259 巣、合計 1054 巣を確認。巣立った幼鳥も多く見られた。 - アオサギは 40 羽を確認。営巣は見られなかった。 - カモ類はスズガモ等 4 種がお台場海浜公園から鳥の島付近の水面で休息。 - カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリが主にお台場海浜公園から鳥の島の水面で見られた。 - トビとハイタカが上空を飛翔。 - ハクセキレイが合計 25 羽見られた。タヒバリ 1 羽が鳥の島の護岸で採餌。

●出現種と個体数

[illegible]

京種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会, 2012)に従った。

③ 情報セキュリティ：③=過剰減危ⅠⅠ期、EN=過剰減危ⅠⅡ期、VI=過剰減危Ⅱ期、NT=過剰減危Ⅲ期、④=情報不足
 ④ 東京臨海副都心：④=過剰減危ⅠⅠ期、EN=過剰減危ⅠⅡ期、VI=過剰減危Ⅱ期、NT=過剰減危Ⅲ期、④=情報不足

<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

干潟は狭く、調査中に徐々に広がっていった。



○出現種(シギ・チドリ類)

シロチドリ、ミヤコドリ、ハマシギが干潟で採餌、タシギがヨシ原際で休息、ダイシャクシギが消波ブロックで休息していた。シロチドリは環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠA類(CR)、ハマシギは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、ミヤコドリとタシギは東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、ダイシャクシギは東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている。



○出現種(クロツラヘラサギ)

5羽が東なぎさの消波ブロックで休息し、引き潮と共に1羽が干潟に移動し採餌を始めた。本種は種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている。



○干潟利用状況

潮位が高かった時は護岸付近でカワウの群れやセグロカモメ等が休息し、干潟が広がるとシギ・チドリ類やサギ類、カモメ類が飛来するようになった。干潟上空をズグロカモメ2羽が飛翔し採餌の様子が見られた。本種は環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



○出現種(タカ類)

東なぎさ上空でトビとチュウヒ、沖合でミサゴが確認された。このうち、チュウヒは種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストと東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。



○海面の状況

スズガモとカンムリカイツブリの群れが範囲内から沖合に広く分布していた。スズガモは範囲内 2795羽、沖合 4152羽、カンムリカイツブリは範囲内 4067羽、沖合 628羽であった。スズガモとカンムリカイツブリは東京都レッドリストで留意種に指定されている。この群れの中に、東京都レッドリストで情報不足(DD)のクロガモ、ウミアイサ、準絶滅危惧(NT)のアカエリカイツブリ、ハジロカイツブリも見られた。



<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

ほぼ最大干潮時刻だが、干潟の干出は少なかった。



○出現種(カモ類)

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモの7種が確認された。調査地北東側の京浜島付近でカルガモやコガモが採餌、南西側の護岸上でオカヨシガモやヒドリガモ、コガモが休息、南側の水面ではオナガガモやコガモが採餌、ハシビロガモが休息していた。

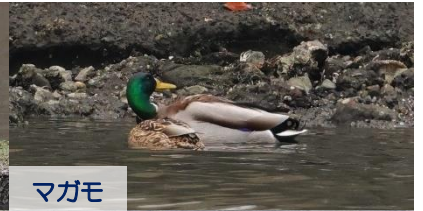
オカヨシガモ



ヒドリガモ



マガモ



カルガモ



ハシビロガモ



オナガガモ



コガモ



○出現種(ミサゴ)

杭の上で採餌や休息をする2羽が確認された。本種は環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。



○出現種(ハクセキレイ)

護岸で採餌する個体が多く、干潟にいた個体を含め合計18羽が観察された。



○干潟利用状況

干潟は狭く、カモメ類が採餌や休息していたほかは、ハクセキレイが休息していたのみで、利用する鳥は少なかった。休息するカモメ類の群れの中に、本調査初記録のシロカモメ1羽が確認された。

採餌するユリカモメ



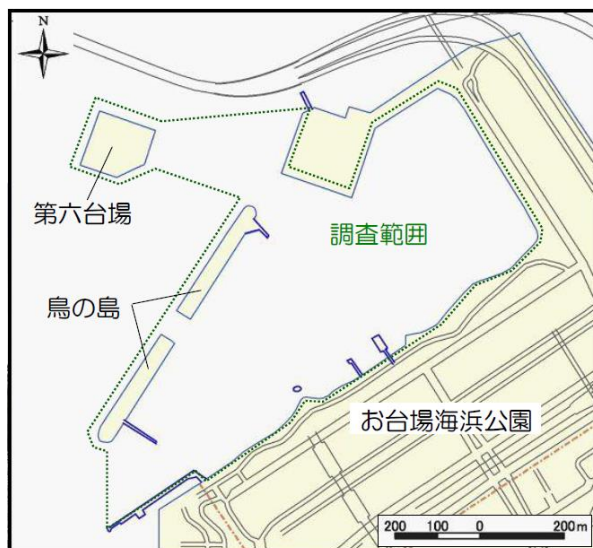
シロカモメ



＜お台場海浜公園＞

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島でカワウが多数営巣していた。



○出現種(カワウ)

カワウが抱卵・^{いくすう}育雛中で、第六台場で 795 巣、鳥の島で 259 巣、合計 1054 巣を確認した。営巣地ではヒナの鳴き声が聞かれ、巣内にヒナの姿が確認されたほか、付近に巣立った幼鳥が多く見られた。



樹上の巣



親とヒナ



巣内の幼鳥

○出現種(アオサギ)

第六台場で 28 羽、鳥の島で 12 羽、合計 40 羽が確認された。嘴に橙赤色の婚姻色が出ている個体も観察されたが、営巣は見られなかった。



○出現種(タカ類)

上空を飛翔するトビとハイタカが確認された。トビは東京都レッドリストで準絶滅危惧(NT)、ハイタカは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB 類(EN)に指定されている。ハイタカは本調査地点で初記録。



トビ



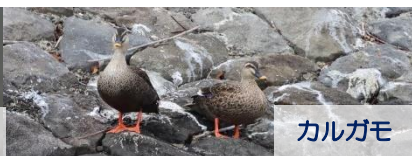
ハイタカ

○出現種(カモ類)

ヒドリガモ、カルガモ、スズガモ、ウミアイサの 4 種が、お台場海浜公園から鳥の島にかけての海上で見られた。個体数はスズガモがもっとも多く合計 668 羽、他の 3 種は数羽であった。



ヒドリガモ



カルガモ



ウミアイサ



スズガモ

<その他>

砂町運河で 57 羽のウミネコが確認された。営巣は始まっておらず、構造物の 1 箇所を確認したところ、巣は見られなかった。このほか、京葉線の高架にとまるカワウ 164 羽が確認された。



ウミネコが営巣していた構造物



構造物の上部



夏羽に変わったウミネコ

<トピックス>

-コガモとアメリカコガモの雑種-

森ヶ崎の鼻でコガモの群れの中に写真の個体が 1 羽観察された。側胸に白色の線(赤矢印)が入るのは亜種アメリカコガモの特徴であるが、肩羽に白色の線(黄矢印)が入るのは亜種コガモの特徴であり、両方の特徴を持つこの個体は交雑個体と考えられる。亜種コガモが日本に普通に渡来するのに対し、亜種アメリカコガモは北米に分布し、数少ない冬鳥として日本に渡来する。日本鳥類目録改訂第 7 版では、どちらも種コガモの亜種に位置付けられるため、本調査ではコガモとして集計した。



コガモとアメリカコガモの雑種 (2 枚は同一個体)

